

初恋さくら販売開始

産業高と甘酒コラボ販売

伊豆沼農産(伊藤秀雄社長)は、登米総合産業高と共同開発した乳酸菌発酵甘酒「初恋さくら」を2月26日から販売しました。

共同開発は、同社の企業理念の「地域資源を生かした商品開発」と、同高の「地域に根ざした教育」が合致したことをきっかけに始まり、同高独自のカリキュラム「起業実践」で昨年7月から取り組みました。

同高普通科3年で、商品開発班長を務めた阿部大樹さんは「自分たちの考えた商品が販売されることになりびっくりしています。店頭で並ぶ姿を想像するとワクワクします」と話していました。



学校所在地名「北桜場」にちなんで「初恋さくら」は、程よい甘さとすっきりとした飲み口のノンアルコール飲料です。

県内初の快挙を達成

3年連続で死亡事故ゼロ

登米警察署管内では、平成25年から交通死亡事故が発生しておらず、平成27年末で3年連続死亡事故ゼロを達成しました。これを受けて登米警察署は2月5日、交通死亡事故抑止活動に尽力した4団体と1個人に、感謝状を贈呈しました。

県内の事故記録が残る昭和30年以降、警察署単位で3年連続死亡事故ゼロの達成は県内初の快挙です。

感謝状贈呈者は次の通りです。【団体】登米地区交通安全協会、登米地区安全運転管理者会、登米地区安全運転管理者事業主会、登米地区地域交通安全活動推進委員協議会【個人】阿部進さん(登米町大谷地)



平成10年から毎年実施している年末恒例の「交通安全ジャンボ門松」づくり。地域で交通安全意識の醸成に努めています。

大事な基本みっちり

女子選手が野球教室指導

レイア野球教室は2月28日、迫体育館で開かれ、レイア所属選手などが、市内の子どもたちに野球技術の指導をしました。

野球教室は、市スポーツ少年団野球協議会が主催し、市内のスポ少8チームと佐沼中女子ソフトボール部の計約80人が参加しました。選手たちは、ボールを受けるときには「必ず正面に回ること」など、基本動作を丁寧に指導しました。

横山クラブの熊谷潤奈さんは「憧れのレイアの選手に教えてもらえてうれしい。自分もプロ野球選手になれるよう練習を頑張ります」と話していました。



レイアから、大倉三佳監督と吉田奈津、高塚南海、平田紗希の3選手が、実技を交えて分かりやすく指導しました。

思いをマンガに込め

石ノ森記念館で自主企画展

石ノ森章太郎ふるさと記念館で2月20日から3月13日まで第17回自主企画展「石ノ森ふるさとマンガ作品展」が開かれました。

自主企画展は、市内幼稚園、保育所、小中学校、県内の高校に作品を募集し、漫画を通して青少年の健全育成を目的に開催しました。

気仙沼市から訪れた紺野賢さんは「登米市まで足を伸ばしたので寄ってみました。仮面ライダーが新幹線に乗ったり、稲刈りをしたりと自分たちでは思い浮かばないですね」と子どもたちの柔軟な発想に感心していました。



石ノ森ヒーロー作品絵画、造形の部、マンガオリジナル作品イラストなど5部門、264点が展示されました。

男声ならではの良さ

パパ絵本読み聞かせ講座

パパ・じいじだから出来る「絵本読み聞かせ講座」は2月28日、石森ふれあいセンターで開催され、親子29人が参加しました。

これは、父親や子育てをしている男性の育児参加をテーマに催されたものです。講師に東日本放送アナウンサーの熊谷博之さんを迎え、男性の声ならではの効果的な読み聞かせのコツを説明、参加者が実践しました。

親子4人で参加した長倉智幸さん(南方町北本郷)は「絵本は子どもたちが寝る前にたまた読んであげます。今日聞いたことをこれからぜひ参考にしたいです」と話していました。



「おやこペンギンジェイとドゥのゆきあそび」を実際に読み聞かせ。お父さんも子どもも、皆さん上手に読んでいました。

伝統の和の心を知る

中学生が長唄・日舞を鑑賞

市制施行10周年記念事業「長唄・日本舞踊鑑賞会」は2月25日、登米祝祭劇場で開かれ、市内10中学校の生徒約750人が日本の伝統芸能を堪能しました。

鑑賞会は、東京芸大邦楽科出身の若手演奏家9人が出演。長唄は、三味線や笛、太鼓、鼓の演奏者と唄方の8人が歌舞伎の演目「勸進帳」を、続いて演奏に合わせて立方が日本舞踊を披露しました。

東和中2年の岩瀬奏子さんは「日本の伝統芸能に触れる機会は少なく、生で見る三味線や太鼓の演奏、きれいな動きの踊りはすばらしかったです。今日は貴重な体験ができました」と感謝の言葉を述べました。



普段触れることのない古典芸能に中学生は興味津々。三味線の材料に猫の皮を使うと知ると、みんな驚いていました。